

Epithelial inclusion cyst と思われる 女子傍尿道嚢胞の1例

三重大学医学部泌尿器科学教室 (主任 : 川村壽一教授)

佐谷 博之, 吉村 暢仁, 林 宣男

有馬 公伸, 柳川 眞, 川村 壽一

A CASE OF FEMALE PARAURETHRAL CYST DIAGNOSED AS EPITHELIAL INCLUSION CYST

Hiroyuki SATANI, Nobuhito YOSHIMURA, Norio HAYASHI,
Kiminobu ARIMA, Makoto YANAGAWA and Juichi KAWAMURA
From the Department of Urology, Mie University School of Medicine

The patient was a 36-year-old woman with a chief complaint of pain of the urethral meatus. A cyst existed just below the urethral meatus. The paraurethral cyst was removed completely. Histologically, the cyst was lined by stratified squamous epithelium. According to the criteria proposed by Das, paraurethral cysts are classified into 4 groups: epithelial inclusion cysts, Müllarian cysts, Gartner duct cysts, Skene duct cysts. In this case, the cyst seemed to be an epithelial inclusion cyst. In the Japanese literature, paraurethral cysts have been incompletely classified from an etiological perspective. Differential diagnoses based on the histological findings of the cysts may be important to determine the etiology.

(Acta Urol. Jpn. 46 : 205-207, 2000)

Key words: Paraurethral cyst, Epithelial inclusion cyst

緒 言

女子傍尿道嚢胞は尿道周囲に存在し、尿道とは交通性のない比較的稀な嚢胞性疾患である。その原因や組織学的由来はいろいろなものが含まれている。Das¹⁾は成人女子の傍尿道嚢胞を組織学的に epithelial inclusion cyst, Gartner 管嚢胞, Müller 管嚢胞, Skene 腺嚢胞に分類している。しかし、いままでの報告例では病因に基づき必ずしも分類されて報告されていない。今回、われわれは組織学的に epithelial inclusion cyst と思われた女子傍尿道嚢胞を経験したので報告する。

症 例

患者 : 36歳, 女性

主訴 : 外陰部腫瘍部の疼痛

家族歴 : 特記すべきことなし

既往歴 : 既婚, 分娩 2 回 (1987年, 1989年)。

現病歴 : 1987年頃より外尿道口周囲の腫瘍に気づいていたが、症状がなく放置していた。1996年頃より腫瘍部の破裂、白色液の排出、疼痛がたびたびみられるようになり、1998年 5 月 6 日当科受診した。傍尿道嚢胞の診断で1998年 6 月15日当科に入院になった。

入院時現症 : 胸腹部理学的所見に異常は認められな

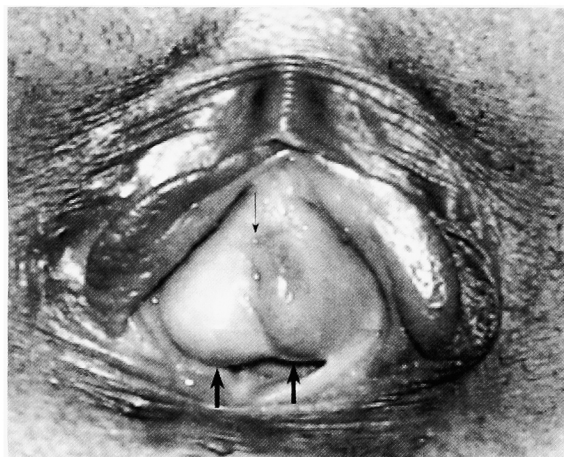


Fig. 1. Gross appearance of the external meatus. A bilocular mass was demonstrated below the urethral meatus (Fine arrow shows urethral meatus and bold arrows show a bilocular mass).

かった。外尿道口 6 時方向の位置に 2 cm 大の中央に溝のある二房性の腫瘍が認められた (Fig. 1)。

検査成績 : 血液一般, 血液生化学, 尿検査に異常所見は認められなかった。排尿時膀胱尿道造影では尿道と嚢胞との交通はみられなかった。

経腔的超音波検査 : 尿道下方に二房性の嚢胞性腫瘍

がみとめられた (Fig. 2).

MRI: 尿道の下方に嚢胞性腫瘍が2個認められた

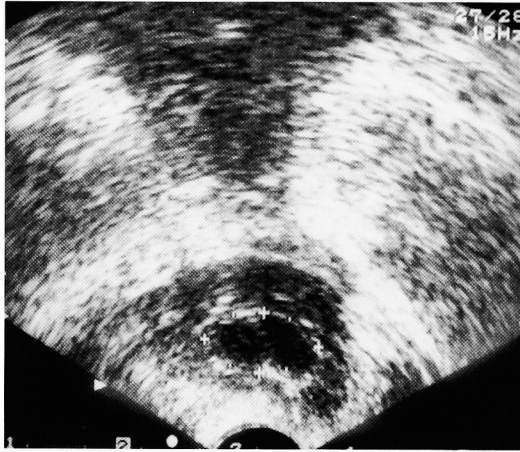


Fig. 2. Transvaginal ultrasonogram indicated cystic mass under the urethra, which was separated by the septum.



Fig. 3. MR imaging (T₂ weighted) showed cystic lesions (bold arrows) under the pubic bone and urethra (fine arrow).

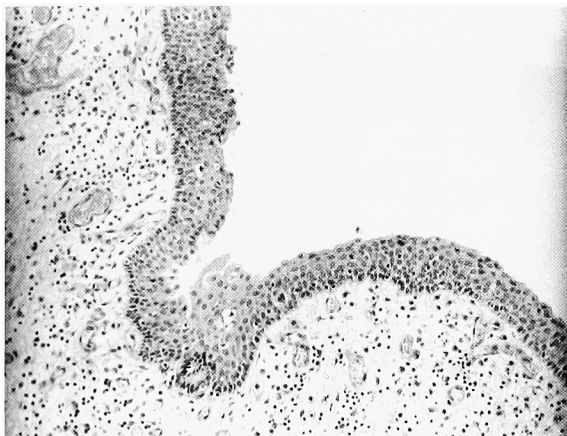


Fig. 4. Microscopically, the cyst was lined by stratified squamous epithelium and there were mononuclear cell infiltrations in the submucosa (H.E. ×400).

(Fig. 3).

手術所見: 傍尿道嚢胞の診断にて 1998年 6月 25日 嚢胞摘出術を施行した。尿道下方の陰前庭部に横切開をおき、粘膜下の腫瘍を摘出した。嚢胞周囲剝離時嚢胞壁を損傷し排膿がみられた。尿道との交通は認められなかった。嚢胞には 5 mm ほどの隔壁が認められた。

病理組織学的所見: 嚢胞壁は重層扁平上皮に被覆されていた。その上皮下には軽度の単核細胞の浸潤が認められた。しかし、悪性所見は認められなかった (Fig. 4)。術後の経過は良好で術後 9 日目に退院した。その後再発はなく、尿道狭窄や尿失禁といった合併症もみられていない。

考 察

傍尿道嚢胞とは尿道腔中隔部に存在する尿道とは交通のない嚢胞性疾患を総称し、交通があるものは尿道憩室とされている²⁻⁴⁾ 20~30歳代に多く、既婚者で分娩歴を有する女子に多いとされている^{5,6)}

Das ら¹⁾によれば成人女子の傍尿道嚢胞は組織学的に epithelial inclusion cyst, Gartner 管嚢胞, Müller 管嚢胞, Skene 腺嚢胞などに分類される。epithelial inclusion cyst は壁は重層扁平上皮のみからなり、分娩のときの外傷など後天的要因が原因と考えられている。しばしば、膿汁を含む。Gartner 管嚢胞は発生学的に中腎由来の cyst で壁は立方円柱上皮でかつ粘液の産生はみられない。Müller 管嚢胞は傍中腎由来で壁は粘液産生円柱細胞である。Skene 腺嚢胞は傍尿道腺由来で、移行上皮である。重層扁平上皮が存在することがある。組織学的にはこれのみを傍尿道嚢胞とする意見がある^{7,8)} このように傍尿道嚢胞は異なる発生原因の疾患が含まれており、組織学的に厳密にいうと異なった疾患が混同して発表されていることが多いように思われる。本症例は重層扁平上皮からなること、出産歴があることより、epithelial inclusion cyst と考えられた。また、二房性になったのはおそらく、分娩時の外傷により表皮が2個封入されたのではないかと考えられた。

最近、玉田らが成年女子の傍尿道嚢胞の本邦発表例 42例を集計している⁹⁾ それに自験例を加えた43例が成年女子の傍尿道嚢胞の本邦報告例と思われた。年齢は17歳から67歳まで分布し、平均34.3歳であった。分娩歴を有する例は43例中25例と比較的多く、後天的要因として関連性が推察される。Johnson は後天的要因として分娩、性交による尿道損傷、尿道周囲腺の感染などをあげている¹⁰⁾ 成人例では組織学的に記載のある。28例中16例が扁平上皮であり、後天的原因が多いと推測される⁹⁾ しかし、本邦では組織学的に重層扁平上皮であっても epithelial inclusion cysts とし

て報告されている例はない。今後、既往歴や組織学的な検討により傍尿道嚢胞の病因に基づく分類が必要だと思われる。

診断としては、超音波検査、排尿時膀胱造影、嚢腫穿刺造影などが行われるが、MRI を施行している例は少ない^{8,9)}。しかし、MRI は腫瘤の内容、周囲との位置関係を知るのに大変有用な検査と思われ、尿道周囲の疾患の鑑別に有用とする報告があるので^{11,12)}、試みられてもよい検査だと思われる。

治療法は姑息的な方法として穿刺吸引術など、根治的には完全摘出術があるが、成人例では大部分に嚢胞摘出が施行されている^{9,13)}。成人例には嚢胞の縮小はなく、また、悪性腫瘍の合併することもあるため¹⁴⁾嚢胞摘出術がより好ましいと考えられた。

結 語

1. 36歳、女性の傍尿道嚢胞を経験したので報告した。
2. 嚢胞壁は重層扁平上皮からなっていた。組織学的には epithelium inclusion cyst と考えられた。分娩などの後天的原因が推察された。
3. 成人女性の傍尿道嚢胞は本邦で43例目と考えられた。

文 献

- 1) Das SP: Paraurethral cysts in women. *J Urol* **126**: 41-43, 1981
- 2) 郡健二郎, 三好 進, 永原 篤: 女子尿道憩室の5例および傍尿道嚢腫の1例. *泌尿紀要* **22**:

273-279, 1976

- 3) 林裕太郎, 多和田俊保, 安藤 裕: 女子傍尿道嚢胞の1例. *西日泌尿* **54**: 1762-1765, 1992
- 4) 三品輝男, 渡辺康介: 女子尿道憩室の13例. *泌尿紀要* **34**: 343-350, 1988
- 5) 千葉泰夫, Mohamed I: 女性傍尿道嚢腫の1例. *臨泌* **49**: 971-973, 1995
- 6) 梶谷雅春, 西田 勉: 女子傍尿道嚢腫の1例. *大分病医誌* **11**: 193-199, 1983
- 7) Klein FA, Vick CW and Brocker BH: Neonatal vaginal cysts: diagnosis and management. *J Urol* **135**: 371-372, 1986
- 8) 徳丸忠昭, 久保雅子: 新生児女児尿道嚢腫2例の経験. *日小児外会誌* **31**: 59-63, 1995
- 9) 玉田博志, 金井秀明, 佐々間芳文, ほか: 女子傍尿道嚢腫の1例. *泌尿器外科* **10**: 1289-1292, 1997
- 10) Johnson CM: Diverticula and cyst of the female urethra. *J Urol* **39**: 506-516, 1938
- 11) Siegelman ES, Banner MP, Ramchandai PR, et al.: Multicoil MR Imaging of symptomatic female urethral and periurethral disease. *Radio Graphics* **17**: 349-365, 1997
- 12) Siegelman ES, Outwater EK, Banner MP, et al.: High-resolution MR imaging of the vagina. *Radiographics* **17**: 1183-1203, 1997
- 13) 仲地健吾, 森 義則, 生駒文彦: Skene 氏管嚢腫の1例. *泌尿紀要* **33**: 957-960, 1987
- 14) 長野正史, 山口孝則, 西 昇平, ほか: 女子傍尿道嚢腫腺癌の1例. *西日泌尿* **54**: 1226, 1992

(Received on May 27, 1999)

(Accepted on December 6, 1999)